

エチオピア人の味覚を知り、新嗜好品を提案する



農学部 2 年
横井 朱里
エチオピア
2016 年 8 月 5 日～
2016 年 9 月 4 日

渡航概要と内容

8 月 5 日～8 月 9 日 国内のデモの影響で首都に留まらざるを得なくなりアジスアベバ内でエチオピア人と交流したりエチオピアの食文化に触れました。アジスアベバ大学も訪れ、博物館を見学しました。

8 月 10、11 日 2 日間かけて車でエチオピア南部のジンカまで移動し道中同行していただいた重田教授にほぼ 1 日中車窓から見えるエチオピアの文化や自然など幅広い範囲の質問に答えていただきエチオピアについての理解を深めました。

8 月 12 日～14 日 ジンカにて JICA の所長を務めておられる方に活動のお話を聞かせていただいたり、マーケットを訪れて市場の様子を観察しました。

8 月 15 日～21 日 ジンカの近くの村であるメツアに滞在しました。エチオピアの伝統文化であるコーヒーセレモニーに参加し、コーヒーの飲み方をはじめと一緒に食べるおつまみの傾向、エチオピア人にとってのコーヒーの存在とは何であるかなどを観察・考察しました。また、アリの民族に所属する 10 代から 60 代の男女 10 名に閾値のテストを実施し、その結果と実験の際に生じた味覚を表す言葉(アリ語)についての疑問をまとめ、考察しました。さらには伝統料理の調理過程を観察し、エチオピアの食文化の理解に努めました。

8 月 22、23 日 2 日間かけて首都のアジスアベバまで移動しました。22 日にはアルバミンチ大学の教授らとお話する機会をいただき、エチオピアや大学の現状をはじめ、様々なお話を聞かせていただきました。

8 月 24 日～9 月 4 日 重田教授の知り合いの方の家にホームステイをさせていただきました。ここではアムハラ族の方 8 名に閾値のテストに協力していただき、結果をまとめるとともにアムハラ語の味覚表現について考察しました。また、出来るだけ食事をホス

トファミリーとともにとり、エチオピアの家庭料理をレシピとともに記録しました。日本から羊羹、さきいかなど数種のお菓子を持って行っていたので、それをホストファミリーに食べてもらい感想や反応を記録し、エチオピア向けの新嗜好品の参考にしました。

渡航を通じて感じたこと

【今回の渡航の目的(味覚の違い)に関して】味覚はその人がこれまでに何を食べてきたかという経験はもちろん、その人が話す言語によっても影響を受けるもので、自分と異なる文化を持つ人の味覚を理解するのは大変難しいものだと感じました。アフリカではおいしいと甘いと同単語で表現されることが多く、このことからわかるようにまず味のとらえ方の概念が違っているように思いました。食事についての現地の人々の考えを理解するには、彼らと一緒に生活し同じものを食べるだけでなく、同じ言語を話し、現地の共通感覚を理解することが大切なのだと痛感しました。また、「好きな食べ物は？」という問いに「その時にとれたものを食べるから好きなものはない」と答えた人が複数いたことから、彼らにとっての食の在り方が日本人のもの(生きるために食べるだけでなくさらに味や見た目、体への影響を重視した食べ方をしていると考えます)とはかなり異なっているように感じました。こういった味・食への関心の違いも非常に興味深く、将来アフリカの食に関わる上で重要なポイントを感じられたように思います。

【その他感じたことで、特に印象深かったこと】ストリートチルドレンがたくさんいたり、隣国で紛争が起こっていたり、自国で政治問題が大きく取り上げられているといった環境下で生きている同年代の学生たちと話して、彼らが多くのことに対して当事者意識を持ちながら生活しているように感じ、逆に日本の学生がいかに自分以外のことを他人事として片づけてしまっているのかを実感しました。特に政治などに関わらなくても満足に生きてしまえる日本だからこその無関心さは、恥ずべきものなのではないかと強く感じました。同時に、日本には出会えなかった素晴らしい人たちと出会ったことで、これまで周りにいる人たちを基準に生きていた自分の世界の狭さを感じ、このままではいけないといった焦りを感じるようになりました。

今回の経験をどのように今後生かしていくか

今回の渡航では、将来アフリカで食品の商品開発をする際に最初に出会うことになったであろう壁にかなり前もって出会うことができたと思っています。一部教授に同行する形を取ったことでフィールドワークの手法も学ぶことができたので、今後学生のうちに今回の結果と反省を踏まえ再度渡航して課題解決のプロセスを経験し、蓄えられるだけの予備知識を精いっぱい蓄えて大学生活を終えたいと思っています。その中で、どのような働き方でアフリカに食を届けるのかといった自分の仕事の形も見つけていければと考えていま

す。また、言葉がなくとも通じるものがあることはもちろん経験できましたが、やはり言葉がいかに大事かということも痛感しました。そのため、初歩的なことですがまずは英語のスキルを上げることに集中して取り組みたいと思っています。そして上でも述べたように、無関心をできるだけなくしてよりたくさんの方に当事者意識を持ち、知識を広げるよう心掛けていきたいと考えています。

主な奨学金の使途

- *渡航費
- *海外旅行保険代
- *宿泊費・食費
- *ビザ
- *研究材料費・その他雑費 など

